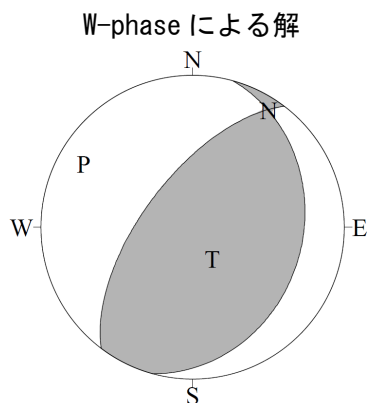


1月7日 モルツカ海地震  
(W-phase を用いた発震機構解析)

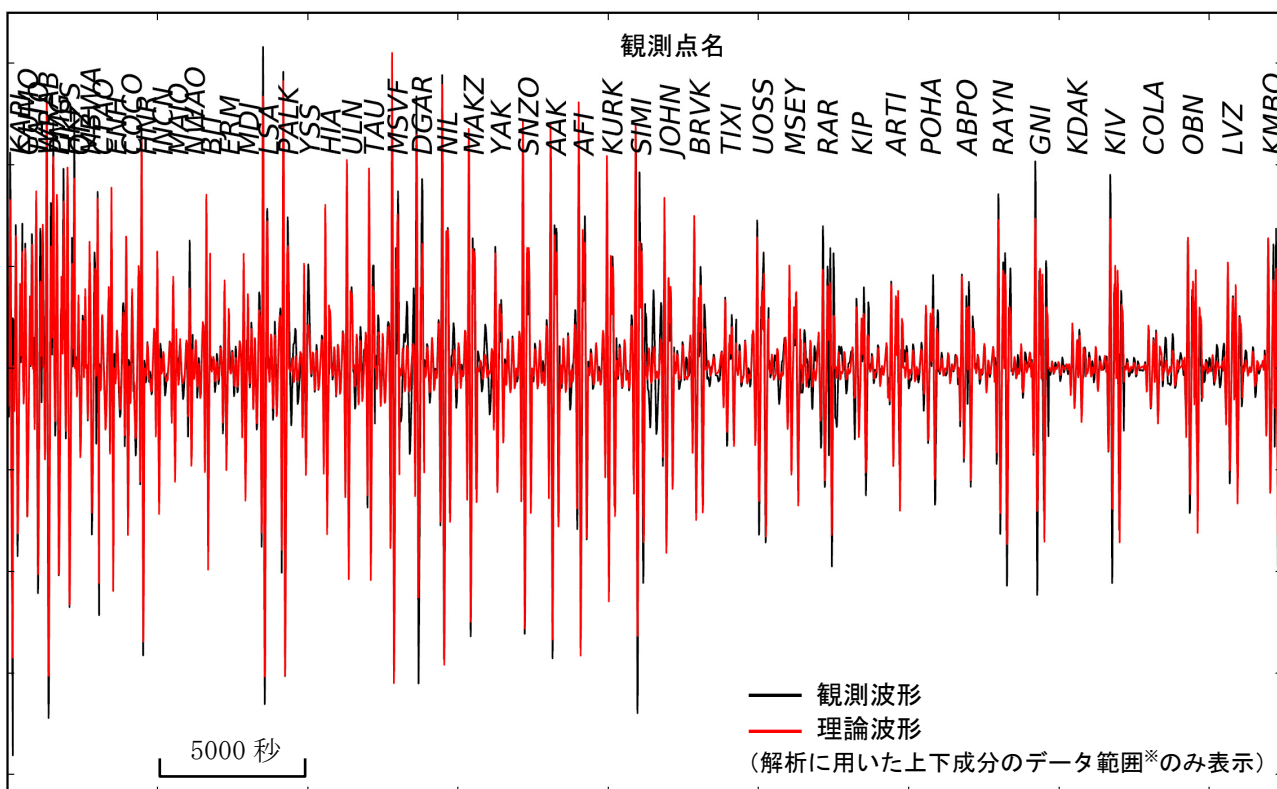


2019 年 1 月 7 日 02 時 27 分（日本時間）にモルッカ海で発生した地震について W-phase を用いた発震機構解析を行った。発震機構、Mw とも、他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 6.6 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は N2.3°、E126.8°、深さ 36km となった。

W-phase の解析では、震央距離  $10^{\circ} \sim 90^{\circ}$  までの 52 観測点の上下成分、29 観測点の水平成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

| Mw  | M <sub>0</sub>           | 断層面解 1 (走向／傾斜／すべり角)   | 断層面解 2 (走向／傾斜／すべり角)    |
|-----|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| 6.6 | 1.13×10 <sup>19</sup> Nm | 15.5° / 28.1° / 70.9° | 217.0° / 63.5° / 99.9° |



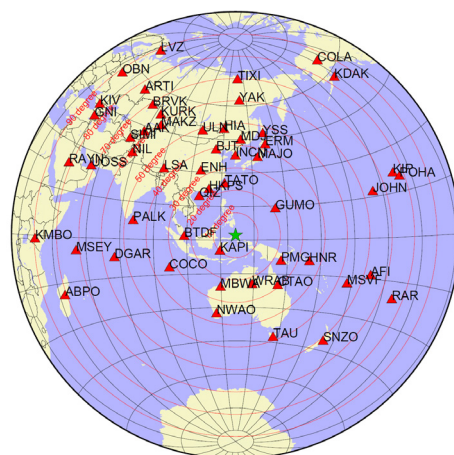
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、  
各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, *Geophys. J. Int.*, **175**, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合（IRIS）のデータ管理センター（DMC）より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



### 解析に使用した観測点配置

気象庁作成